

マタイによる福音書 12 章 31 節の「人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦されるが、“霊”に対する冒瀆は赦されない。」とはどのような意味でしょうか。

聖霊に対する、冒瀆は許されないという同趣旨の聖句は、マタイによる福音書の他に、マルコによる福音書 3 章 29 節およびルカによる福音書 12 章 10 節に出現する根本的に重要な教えです。

すなわち、人の子として世に来られた、イエス様の働きの根源は、まさに聖霊の力、そのものであり、これをサタンのせいにするとは根本的に神を否定することとなり、悪霊に支配された人の心を解放し、悔い改めに至らせる聖霊を拒否することは、とりもなおさず、永遠に神から引き離されることになるということを意味するものです。とくに、このことを知りながら、聖霊の働きを拒否し、悪霊とすりかえる律法学者はイエスの最も唾棄すべき存在でした。

新共同訳 参照箇所：

「だから、言うておく。人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦されるが、“霊”に対する冒瀆は赦されない。」(マタイによる福音書 12 章 31 節)

「しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」
(マルコによる福音書 3 章 29 節)

「人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されない。」(ルカによる福音書 12 章 10 節 新共同訳聖書)

参考文献：

新改訳聖書 注解・索引・チェーン式引照付 いのちのことば社
ESV Study Bible Crossway